

1-49 牛ふん堆肥と動物性食品残渣や海藻等を混合した完全発酵堆肥 (JA新みやぎ あさひなオーガニックプラント)

○ JA新みやぎ あさひなオーガニックプラントは、牛ふんや海藻のほか、野菜くず等の動物性食品残渣を受け入れ、混合・発酵させることにより「郷の有機」を製造し、販売を行う。

■ 国内資源の種類 ■ 肥料の種類・肥料名称

- ・牛ふん堆肥
- ・海藻
- ・野菜くず
- ・おから
- ・米ヌカ
- ・カニガラ

種類：特殊肥料
名称：郷の有機

■ 主成分の含有量(%), 特徴等

N	P	K	CN比
2.3	1.8	2.6	17

- ・カニガラ（キチン質）、海藻の効果による土壤中の放線菌の増加により、土壤病害の低下が期待。
- ・70℃以上での高温醗酵により雑草種子が死滅し、雑草の心配なし。

- ### ■ 作物
- ・米
 - ・野菜
 - ・花 等

■ 取組の経緯・内容・成果 (見込み)

取組の経緯

・約30年前に地元畜産農家の要望を受け、堆肥センターを設置。運営当初は畜ふんのみを扱っていたが、地域の畜産農家の減少により畜ふん供給量も減少したことから、動物性食品残渣等の利用を開始。

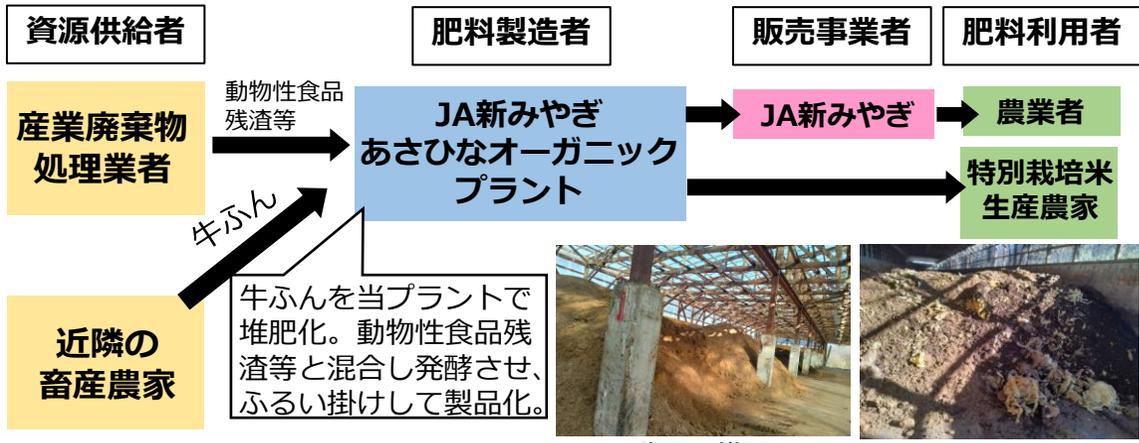
取組の内容

- ・畜産農家19軒より生状態の牛ふんを受け入れし、当プラントにて堆肥化。また、食品会社35社及び農家等から、産業廃棄物を取り扱う業者を通じて動物性食品残渣を受け入れ、これらを混合し発酵させ「郷の有機」を製造。
- ・一般の農業者にはJAを通じてバラ（40L）、ペレット（15L）を販売。特別栽培米の生産農家にはフレコン詰めで販売。

成果 (見込み)

- ・本肥料を活用し、JA新みやぎ管内の水田作付面積535.5haのうち23%で特別栽培米を生産。特別栽培米は地域のスーパーで販売されるほか、学校給食で提供。

■ 主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■ 今後の課題・取組

- ・牛ふん及び動物性食品残渣の受け入れ量の減少
 - ・施設の老朽化
 - ・販売ルートの拡大
 - ・製造コストと販売価格の不釣り合い
- ⇒国内資源を利用して生産した農産物へ付加価値を付与出来れば改善の余地があるのではないかとと思うが、消費者理解を得るのが難しい。

